（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3390200420		
法人名	医療法人　誠和会		
事業所名	グループホーム　コ―ジ―　（オレンジユニット）		
所在地	岡山県倉敷市中島848-6		
自己評価作成日	平成２３年１１月１日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200420&SCD=320&PCD=33

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフサポート
所在地	岡山市北区南方２丁目１３－１　県総合福祉・ボランティア・ＮＰＯ・会館
訪問調査日	平成23年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人内の各施設と連携、医療と介護でひとりひとりの生活を支えている。法人の理念をもとに、3つの目標をかかげ取り組んでいる。個別ケアとして、その方が得意とすることが継続して行えるよう、ぬりえ、お寿司作り、お菓子作り、計算ドリルなど提供している。作成した作品は、リビングに飾り、家族や入居者に見てもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成２２年末にこのホームの建物に対してデザイン優秀賞が授与された。外観のデザインは勿論建物としての機能も評価されているようで、リビングルームもすっきりとして居心地良さもある。2ユニットのリビング同士は中央に広いウドデッキがあり、木や花壇も配置され両ユニットから出て利用者は交流出来、ここで食事やティタイムを過ごす事もある。その奥に畑があり、今は野菜類が青々と育っている。居室の入口には正方形を2つ組み合わせたパネルがあり、写真や自分の作品を展示する事も出来る。リビングルームは食堂パーツとソファに座ってテレビを見る事が出来る寛ぎゾーンがゆったりと取れる広いスペースがあり、ゆとりある生活が出来る。テーブルでは塗り絵やジクソーパズルで遊んでいたり、編物をしてそれぞれの趣味に合わせた生活をしている。職員は比較的若い層の人が多く、利用者にとっては可愛い存在である。ホームの隣りには来年から始まる小規模多機能ホームが建築中で、又楽しみが増えそうだ。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに、3つの目標をかかげ取り組んでいる。中でも、家族と一緒に行うケア、見守りケアに心がけている。教育の中にも取り入れ実施している。	「楽しみ安心感のある生活、尊厳ある生活、社会生活を保つ」という理念を玄関に掲げ、パンフレットにも載せている。これを実現するために努力しているが、社会生活についてはもう少し積極的姿勢も必要かと感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内に行事や交流会に参加している。散歩へ出かけた時には、挨拶をしたり、話をすることもある。託児所の子どもたちとふれあう機会も作っている。	散歩や買物・運動会など出かけての出会いのほか、法人内他事業所での交流がある。法人内託児所の子供との交流は喜ばれる。人形劇・フラダンスなどのボランティアも来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護、看護学生の実習を受け入れている。また、同法人が受け入れた実習生に見学、説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表、家族、介護保険課、法人各施設の参加があり、ホームでの活動内容を報告、意見交換をしている。家族より離棟が心配という意見があり、玄関、各ユニットの入口にベルを設置した。	介護保険課・地域包括支援センター・地域代表・家族などが参加してスライドでホームの状況を報告したり、意見交換をしたりしている。災害対策・鍵の問題・畑のことなど具体的意見が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に、連絡、相談させてもらっている。	運営推進会議には介護保険課と地域包括が毎回出席している。行政との連絡は法人が取ることが多いが、グループホーム独自のことは直接介護保険課と連絡をとる。事業者連絡会議にも参加する。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で委員会を作り、マニュアル作成見直し、勉強会を開催し日々のケアのふりかえりをしている。	身体直接の拘束はないが、言葉や環境での問題がないかを、委員会で研究し、月に1度の勉強会でとりあげ、全員で意見交換をし共通理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム内で委員会を作り、勉強会を開催し理解を深めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者が1名おり、後見人とも日々話合いをしている。生活の様子等こまめに連絡を取れるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	入居前には、契約書、重要事項説明書で説明を行っている。分からないことがあれば、随時説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や運営推進会議の時に状況や活動内容を説明し、意見交換をしている。また、1ヵ月に1回生活の様子、新聞を送付している。	カンファレンス･運営推進会議･日常の面会時などに近況報告をし、気になることを話し合っている。家族も職員の気付かない事などを言ってくれ、後で対応策を職員間で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1～2回、ミーティングを開催し、意見を聞き検討している。日誌やノート、議事録を活用し情報の共有を行っている。	朝の申し送りや月1回のユニット会議で、お互いの連絡や注意事項の確認をしながら、意見交換をしている。また連絡ノートで利用者や全体のことについての連絡や意見を伝えている。研修会などで資質向上に努めている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	年に2回面談を行い、人事考課、目標設定、確認をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加の機会を作っている。ホーム内で委員会を作り、それぞれが講師となり勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、意見や情報交換をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に、家族や本人より話を聞いたり、随時、心配や不安なことがあればゆっくり話を聞き、落ち着いた生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族の要望、思いを聞き関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に、本人や家族へ会いに行き、生活の様子、身体状況等情報収集している。また、サービス利用をしている機関からも情報収集を行い、会議を開催し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等、入居者と一緒に行えるよう役割を作り取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回、家族と過ごす時間として、行事を計画している。なるべく平日ではなく土曜日等に行えるように計画をしている。また、生活の様子や新聞、来訪時には、状況の報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人宅へ訪問したり、家へ外出する機会を作っている。また、ゆっくりお茶を飲み過ごしてもらえるよう努めている。	家族に協力をお願いし、できるだけ頻回に来訪してもらうようにしている。入居時にホームに馴染んで貰うためには、事前情報から馴染めそうな相手をあらかじめ探しておき、席などの配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが困難な入居者には、職員が間に入り関わりが持てるようにしている。小集団で体操をしたりレクリエーションをしたりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報交換をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話より希望や楽しみを把握し、行事等に取り入れている。また、家族へも協力を依頼し一緒に生活を支えれるよう取り組んでいる。	一人ひとりの経歴などを把握した上で、利用者の輪の中に入って話し相手をし、思いを受け止めている。月1回利用者との意見交換会を始め、行事中心だが感想や希望を聞き、計画に取り入れている。	思いを十分表現できない人から思いを引き出すため、行事の写真や思い出の物を見ながら話すこともよいと思う。懐かしい話などから、本音を聞けることもあり、関係が深まると思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族へフェイスシートを記入してもらい情報収集をしている。また、日々の会話の中から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小集団、一人で過ごす時間を作っている。様子や状況をカルテに記入し把握ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1～6ヵ月ごとに介護計画書の見直しをしている。家族、本人に参加してもらい要望を取り入れている。介護、看護師が参加し話し合い介護計画書を作成している。 （22・目標計画達成）	生活記録からのモニタリング、3か月に1回の評価を行い6か月に1回計画の見直しを行っている。家族には状況を説明して要望を聞き、医師や看護師の意見も取り入れ、具体的リハビリを入れた計画を作成している。	身体面のリハビリによる生活機能の維持向上を目指す他に、詳しいアセスメントから利用者の本音を引出し、精神面をさらに充実させるための具体的支援を計画に盛り込みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やモニタリングシートに実施内容を記入評価し、カンファレンスにて検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	積極的リハビリの必要性がある人には、法人内のリハビリスタッフにアドバイスをもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	託児所の園児と交流、法人内の行事に参加している。また、近所のスーパーへ買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、協力医療機関、以前よりのかかりつけ医に受診している。週1回、訪問診察があり医師、看護師と連携し状態把握をしている。	法人内クリニックから週1回の訪問診察や訪問看護があるほか、母体病院への受診や以前からのかかりつけ医への受診を支援している。ホームに看護師がいる他、緊急時や入院なども母体病院が応じ、安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、異常があれば看護師に報告、相談し医師の指示のもと対応している。異変に気づけるよう医療の勉強会を開催している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報提供、治療中の様子など情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な管理が必要となった場合、家族、医師と相談し状態に応じた施設でサービスが受けられるように援助している。入居相談時に、家族へ説明し同意を得ている。	法人内に各種施設があり、重度化した場合それぞれに適した施設への移動をお願いしている。医師や家族と話し合い、食事摂取不能や継続的医療の必要な場合は入院してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、マニュアルを作成し、マニュアルをもとに勉強会を実施している。事故発生時には、ミーティングを開催し対応方法を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練実施している。災害時には、法人内の職員が駆けつけ協力体制がとれている。また、マニュアルを作成し、マニュアルに沿って対応できるように周知している。	スプリンクラー･排煙装置･避難口など設備され、災害時マニュアルもある。法人との連携を盛り込んだ災害時訓練を行い、利用者も参加し、繰り返し行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケア、声かけについて見直しため勉強会を開催し話合っている。ぬりえなど作品をリビングや居室に飾るようにしている。	特に排泄時や入浴時には気を遣い、直視したりせずタオルで隠したり、声のかけ方にも気を付けている。手伝ってもらったときなどは、みんなの前でお礼を言うなどして、気持ちを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話しをしながら希望を取り入れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事時間など本人の生活に合わせ希望を聞きながら対応している。好きな活動、ぬりえ、編み物など継続して行えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらったり、化粧ができるようにしている。また、自力で身だしなみを整えることが困難な場合、職員が行っている。定期的に、訪問美容室がありカット実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、行事食あり旬の食材、また、地産の物を使用している。畑で野菜を育てているためとれた物を使い作っている。食べたい物などリクエストにも答えれるよう業者と連携している。	朝食以外は法人施設から調理済みの料理が運ばれ、ホームではそれを付分けている。利用者の状態に合わせてミキサー食や刻み食も用意している。行事食やバイキング形式の楽しみも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分、食事量のチェックを行っている。食事量が少ない時には、本人が好む物やおやつを提供し補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。困難な入居者のには、職員が介助している。夜間には、義歯を預かり洗浄剤にて消毒し清潔が保てるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況を把握しながら、トイレ誘導、パット更新の声かけを行っている。	排泄が自立している人も多いが、必要な人を食事前などにトイレ誘導している。夜間移動が難しい人にはポータブルトイレを居室に備えている。トイレでの排泄に改善されたことにより歩行も改善された例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量のチェックや体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るようにしている。病状や本人の希望を聞きながら入浴をしている。	病状を見ながら本人の希望に合わせて入浴してもらっている。毎日入浴する人もあるが、1日おきぐらいに入浴する人が多い。自立の人は少なく、一人介助や見守りを必要とする人が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーでくつろいだり、ウッドデッキにて日向ぼっこをしたりゆっくりと過ごせるようにしている。夜間、寝る前に入浴している入居者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用について常に確認が出来るようカルテにはさんでいる。配薬、服薬確認を行っている。法人内で行われる薬の勉強会に参加している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑で野菜を育て収穫したり、野菜を使って料理をする時意見を聞き、一緒に行っている。また、作成した作品をリビングに飾り、入居者や家族などに見てもらえるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへ買い物に行ったり、レストランで食事をする機会を作っている。また、家に帰ったり、友人宅を訪問する時間も作っている。	交通事情により、買物や近所の散歩には個別に出かけている。今年は利用者の希望を聞きながら、少人数でドライブに出かけ、公園などでゆっくり楽しむ機会を作っている。法人内のレストランやホールにはよく出かける。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じお金の管理をしている。希望を聞きながらスーパーなどに買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話をしている。携帯電話を持っている入居者もおり自由に電話をしている。家族へ年賀状や暑中お見舞いを送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる植物や花を置いている。また、天候や温度をみながら空調管理している。 （２２・目標計画継続）	過ごしやすい空調管理を行い、テーブルでのおしゃべりや自由に座れるソファーでのテレビを楽しんだり、デッキの利用や畑作業も楽しんでいる。利用者の塗り絵を展示するパネルがあるが、行事写真など話題にするものも欲しい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにてテレビを見たり、読書、活動をしながらゆっくり過ごせるように椅子、ソファー、テーブルを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を用意してもらっている。	居室に独自の家具や道具を入れて独自の生活を楽しんでいる人や、あまり何も置かない人などそれぞれである。鏡台を持っている女性も多い。好きな歌手の写真を貼っている人や自室で日記を付けている人もある。	3
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーであり活動できるスペースを十分にとっている。		